



# 奮闘記

# にわか ファーマー



◆「キャベツにアオムシがおるよ」「タネを撒いたら、芽が出るまで水やらんと」「いちごの苗床まだ耕していないで」—5年前退職間もない頃の私は、母親の声に追い立てられるように畑に向かいました。会社に勤めていた頃は、緩急があり、時には急加速、急停車の目まぐるしい仕事をしていましたが、野菜作りは休まず長くゆつたりどちらリズムでないと体が持たないことにすぐに気がつきました。5年が経ち、ようやくそのリズムに慣



地域の農を支える生産者

箕面市新稻地域

ひらいきよはる

平井清治さん  
(65歳)



は畠仕事を手伝つていましたし、ある程度野菜作りのことはわかつてゐるつもりでしたが、いざ始めてみると、次から次へとやることが出てきて、ほぼ毎日、畠に出るようになりました。雨の日以外は畠を耕す：心境は伴つてはいませんが形だけは『晴耕雨読』になつてゐるようです。

には変化が見えていない」これは教育関係の仕事をしていた際に先輩社員から言われた言葉。野菜がうまく育たなかつた時は、その野菜をしつかり見ていないことが多いように思います。二つ目は「稻は人の足音で育つ」——イネ・ムギ学の講義で教授から聞いた言葉。未熟な私もせつせと畑に通うことはできる。うまくいかなかつたときには自分を慰める言葉です。近所の米作りの達人たちは当然の如く朝晩、田んぼに足を運ばれています。その域に達するのはだいぶ先のようです。

## ◆直売所の魅力

萱野の農産物直売所には、スパンコールでは見かけない野菜が並ぶことがあります。直売所の魅力の一つです。その野菜をおすすめのレシピ通りに料理すると予想以上に美味しいことから、栽培し始めた野菜がいくつかあります。JAの営農生活部の職員さんから、紹介されたのが「おかわかめ」。ほとんど知られていない野菜だったの

が貧弱に思えてなりません。たかが5年で満足のいく野菜作りはできないのは当然ですが、気持ち的には歯痒いものがあります。タネを変えたり、時く時期を変えたり、肥料を多めにしたりしていますが、今ひとつうまくいきません。土作りが大切なんだとぼんやりと考えています。良い土作りは、避けでは通れない課題だと思います。

ので遠慮がない分、感情的になることもたびたびですが、ありがたい存在です。また、近所には同じように野菜や花卉を作る仲間がいて、困ったことはほとんど解決できます。また、直売所や朝市（箕面駅前、毎週土曜開催）で顔見知りになつた方々にも助けてもらつています。初対面の出荷者さんに長いフキの育て方を教えてもらつたり、「動噴（動力噴霧器）なら、〇〇メーカーのこの大きさがコスパがいい」というアドバイスで自分にぴったりの動噴を買うことができました。今はネットでさまざま調べることができますが、決めては、身近な人の声に頼ることが多くなります。

「定年してからはランチを自分で作つてもらおうかな」と女房から言われ、しばらくは自分で作りましたが、私が畠に出ているのを見て

スーパーで見かける野菜は見事に大きさが揃っています。きゅうりでもナスでも大きさが揃っているのは、同じ値段で売るスーパー側の都合によるものと考えられます。その点、直売所では大きさの違う野菜が並んでいます。取り遅れの大きなきゅうりは安いのでタネを除いて、漬物にしたり、キューチゃんにして食べるのがおすすめです。大小様々の野菜が並ぶのは自然なことで、これも直売所の魅力の一

らえませんでしたが、今では葉物  
が不足する夏場に重宝されるよ  
うになりました。「のらぼう菜」は  
直売所に並んでいたのを購入し  
たところ、とても美味しかったの  
で作り始めました。菜花と同じよ  
うにお浸しにしてポン酢で食べる  
と絶品ですので、ぜひお試しいた  
だきたいと思います。

スーパーで見かける野菜は見事  
に大きさが揃っています。きゅうり  
でもナスでも大きさが揃っている  
のは、同じ値段で売るスーパー側の  
都合によるものと考えられます。  
その点、直売所では大きさの違う  
野菜が並んでいます。取り遅れの  
大きなきゅうりは安いのでタネを

(今回は農作物を育てる上で、心掛けていること、印象に残った言葉などを、平井さん自ら記して頂きました。)

つと考えています